

〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉2-17-6
 サンコート新千葉102号
 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp
 TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263
 発行責任者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター
 2023年11月10日発行 第104号 1部100円 <https://chiba.gekijou.org/>



「千葉県不登校児童生徒の教育機会の確保を支援する条例」 全国で初めて千葉県が制定

不登校の子どもたちの支援に特化した条例が、千葉県議会会で可決・成立しました。不登校の子どもたち支援の基本的な姿勢が示されたことを歓迎し、確実な予算措置をして、実効ある結果につながり、実を結ぶよう願います。

(令和5年2月定例県議会において成立し、令和5年4月1日から施行)

この条例は、不登校の児童や生徒を支援するため、行政や学校、フリースクールなどの役割を定めたものです。また、不登校の子どもたちの学校への登校だけを目標とせず、さまざまな教育の受け方を認めて将来的な自立を目指すことなどを掲げています。学校は、児童や生徒の状況を継続的に把握し、さまざまな教育機会を選択できるような支援することや、学校とフリースクールが密接な連携に努めるとしていません。不登校の子どもたちの支援に特化した都道府県の条例の制定は全国で初めてということですが。

(千葉県教育委員会HPより一部記載)

■目的

不登校児童生徒の状況に応じた施策を総合的に推進し、もって不登校児童生徒の将来の社会的自立に資する。

■基本理念

※全ての児童生徒が豊かな学校生活を送り、安心して教育を受けられるよう、教職員との信頼関係及び児童生徒相互の円滑な人間関係の構築並びにいじめ、暴力行為、体罰等を許さない学校運営を図る。

※不登校児童生徒の主体性を尊重し、不登校児童生徒が再び登校できるようになることのみを目標とせず、将来の社会的自立を目指す不登校児童生徒一人一人の状況に応じた多様な学習活動を認めて支援する。

※県、市町村、学校、児童生徒の保護者、フリースクール等その他の関係者が相互に密接に連携する。

■県の施策

※情報の提供等 ※相談体制の整備
 ※学校以外の場における学習活動等の状況の継続的な把握 ※県民の理解の促進

●千葉県不登校児童生徒支援連絡協議会

県は、県教委、市町村教委、学校、児童生徒の保護者、フリースクール等、学識経験者その他の関係者により構成される連絡協議会を置く。連絡協議会は、施策を円滑に実施するための連絡及び協議を行う

追記：施行後の財政措置は現在審議中

令和4年度千葉県の児童虐待の状況について 千葉県児童相談所による相談対応件数の推移

令和5年9月14日発表 (単位：件)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
全国	88,931	103,286	122,575	133,778	159,850	193,780	205,044	207,660	219,170
千葉県・市	5,950	6,669	7,910	7,914	9,060	10,715	11,629	11,870	11,219
千葉県	5,173	5,568	6,775	6,811	7,547	9,061	9,863	9,593	8,747

※「千葉県・市」は県及び千葉市の7児童相談所、「千葉県」は県の6児童相談所に置ける件数。

千葉県の児童相談所の児童虐待に関する相談対応件数は、令和4年度では8,747件であり、前年度と比較すると846件減少しています。また、千葉市を含めると11,219件となり、前年度と比較すると651件減少しています。高い水準でほぼ横ばいとなっており、依然、児童虐待への関心が高いものと考えられます。

■類型別では、子どもの前で親などが家族に暴力をふるう面前DVや暴言、差別などの「心理的虐待」が最多で45.5%を占め、「身体的虐待」が28.5%、「保護の怠慢・拒否」(ネグレクト)が23.7%となりました。

■通告の経路別では、「警察等」が46.3%と最も多く、「近隣・知人」が15.0%「家族」が8.5%と続いています。■全国における千葉県の順位(対応件数順)は、第4位となります。

訪問に際しては、15 のすべての会派に訪問依頼と打診をし、10 月末までに 9 つの会派への訪問を終えました。県議会議員を訪問したのは、1999 年 NPO 法人になってはじめてのことです。

自由民主党

乳幼児と親との活動、大事な視点ですね！

多忙な中、12 名の議員が懇談に参加してくださいました。「こども家庭庁」についてはまだ、行政の準備もできていないとの話で、逆に私たちの活動を教えてほしいと言われ、多くの質問を受けました。乳幼児の事業について市の財源はどうなっているか？などそれぞれの選挙区の動きも気になっているようでした。突然の参加に準備が間に合わず、私たちのような NPO が活動していることを知らずびっくりされていました。

議会中の短い時間で行われましたが、一人一人が熱心に資料に目を通していてくれているのは解りました。特に傾聴のラインについて何を支援できるか考えたいと言われていました。

公明党

学校での芸術的な体験授業に共感します！

2018 年制定の「千葉県文化芸術に関する条例」づくりの際に、一度お話をうかがったことを伝えると覚えておられ、「芸術家派遣事業」などの提案の趣旨をよく理解されていました。特に学校で実施している芸術家派遣事業について、質問がたくさん出ました。2022 年に「子育て応援策定プラン」を反映した若い世代の仕事の安定と希望が持てるような具体的な施策をつくったとのことでした。党として特に力を入れているのがヤングケアラー、重症心身障害児の医療的ケア児、働きながら子育てできる制度、孤立化した保育を少なくする、妊娠出産への支援などの重点施策が私たちの「ねがい」と重なりました。2 つの傾聴のラインについて自力でやっていることへ驚きの様子でした。

立憲民主党

全人教育として芸術性は必要ですね！

子どもの権利条約 31 条を読んだばかり、いいタイミングだったと話す議員もいて、活発な意見交換の場になりました。芸術家派遣や笑顔の贈り物事業などの芸術的手法による体験事業では、事業を紹介したい、どのぐらいの予算で出来るのかなど実務的な質問が多く、子どもたちの様子、芸術的手法による体験やその効果など、メモを取りながらの熱心な質疑応答が続いた 1 時間 30 分でした。チャイルドラインやママパパラインからの声への関心度も高く、地域で見聞きする現状や具体例を話されるなかで、傾聴ラインでの対応や受け手育成についての詳しい説明も求められました。こども条例を制定し、子どもの権利擁護の窓口を設置すること。早急な実現を期待しています。

日本共産党

事業の拡がりや活動内容にびっくりしました！

開口一番「皆さんの活動を聞かせてください」と。芸術を活用したプログラムを、0 歳からの乳幼児、乳児院、児童相談所、病院等々に届けていること、20 年以上、チャイルドラインやママパパラインの傾聴事業を続けていることに、「素晴らしいですね！」と、お褒めいただきました。法人格取得後の事業の拡がりや展開にびっくりの様子でした。傾聴ラインについては、県からの補助金を得ず、カード作成や管理費も自力で財源を生み出していることにも感心され、「私たちのねがい」についても理解と共感を得ました。こども家庭庁に関する党としての施策は、特に今時点でのコメントはありませんでした。

お会いした

議員数：36 名

全議員数 95 名

千葉県議会の全会派・訪問中

「千葉県における「こどもまんなか社会」の実現にむけて連携への第一歩」

子ども・子育てに係る NPO として、子ども劇場千葉県センターが実施している事業紹介を通し、今、子どもの現場で起きていることやともに何ができるかなどの意見交換の場を持ちました。各会派の議員との和やかな懇談のなかにも、子育て・子育てをめぐる地域課題解決や支援策などの話も出ました。こども家庭庁の発足を受けて、千葉県としての方向性やこども条例への動きなど、訪問したからこそその情報交換は成果です。

訪問の目的

2023 年 4 月「こども家庭庁」が設置され、全てのこどもに関する法律の基本となる「こども基本法」が施行された。千葉県においても子ども、子育て施策にも反映される事を期待し、今後の千葉県の動きや施策を打ち出していく県議会議員としての考えをお聞きする。

持参した資料

- ・事業提案書、子どもが「幸福を感じられる千葉県へ！～私たちができること～
- ・事業のご案内
- ・ミッションパンフレット
- ・チャイルドライン年次報告書
- ・ママパパライン年次報告書
- ・ぐるっと房総
- ・子どもの権利ノート

議員に手渡した

■ 私たちのねがい ■

- ①0歳～2歳は「基本的信頼感」の形成や「非認知能力」の基礎が育つ時期でもあり、子育てに手を焼く時期でもあります。0歳～2歳とその親対象の子育て支援事業に、芸術的プログラムを新たな支援施策として取り入れ、虐待を起こさない・笑顔の子育てになる質の高い支援を充実してください。
- ②困難な状況にある子どもたち(病院・乳児院・児童相談所・児童養護施設)に、年1回でも芸術文化にふれる体験の機会をつくってください。子どもの自己肯定感の醸成やQOL向上に、芸術の力による効果が高いと、実施施設から喜びの声が寄せられています。私共NPOも連携させてください。
- ③小学生・特別支援学校等、学校の授業に芸術家による体験ワークショップを取り入れてください。県内の子どもたちに等しく、勝ち負けや人と比べることがない芸術と出会う機会を創り、楽しい学校、行きたくなる学校になるよう、NPOとして、地域社会としても支えていきたいと願っています。
- ④民間NPOが開設している傾聴ラインへの応援をしていただきたい。「チャイルドライン千葉」や「ママパパラインちば」の情報を当事者である、子どもや保護者に届けることが何より大事です。毎年配布しているアドカード作成に係る作成費や運搬費の支援の検討をお願いしたいと存じます。
- ⑤「子どもの権利ノート」を小学生に普及してください。

千葉県政策議員団

環境を整えるのは大人の責任です！

「総合企画企業常任委員会」をされている船橋市選出議員にお話を聞きました。委員会の仕事は子ども子育てとは距離があるように感じましたが、子育て中とのこともあり、子どもをとりまく様々なコミュニティがあるべきで、その環境を整えることに力をいれていることがわかりました。学校へ行って北欧のような主権者教育の話をしてほしいけれどなかなか難しい。「子どもの権利ノートを広く子どもたちに普及したいですね」と語ってくれました。

千葉県新政会

子ども施策は未来への投資！

力を入れているのは教育の無償化で、子どもの育ちを保障していく財源を確保することは、未来への投資ですと言われました。体験の格差についても議会で取り上げる予定だそうです。子どもがやる気を起こす、やりたいことができる社会にしたいという思いがあります。「千葉県不登校児童生徒の教育の機会確保を支援する条例」づくりに、他の会派の皆さんとも力を出し頑張ったとっておられました。子どもの権利ノートをもっと広報しましょうと、エールを頂きました。

北総ダッシュの会

施策として制度化することが必要ですね！

全国的な児童相談所の実態等について様々な知見をお持ちでした。児童相談所等に芸術的な体験ワークを届けている事業や、0歳からの乳幼児の親子に芸術的手法での子育て支援事業について、県・市町村で施策上の制度化をすることが必要だと明言され力強かったです。また、チャイルドラインの情報が、児相の子どもたちにも届くことを願っていました。こども家庭庁の施策づくりのためには、県内選出の国会議員にも会って、話したらどうでしょう？との提案もいただきました。

市民ネットワーク

次年度は是非、要望書を出すべきです！

多くの女性議員が活躍され、環境や人権、女性の社会参画など社会課題に向けての政策提案、特に子どもの権利ノートの普及に力を入れていました。次年度の子ども施策として、貧困対策、子どもの人権教育の予算要求をしたとの事です。提案書を見て次年度は予算の要望をした方がいいとアドバイスをいただきました。「チャイルドライン」「ママパパライン」に関心をよせ、多くのボランティアが関わっていること、生の子どもの声や養育者の声を聴く機会が重要だと、共感していただきました。

市民力

子どもの声を聴くアドボカシーの制度化 県が窓口になるよう進めたいです！

こども家庭庁の発足を受けての千葉県の動きについての問いには 国の方向まち、県の動きはおそく、これからと明快な答えでした。政策においては子どもに関して乖離があり、県の子ども支援は不十分。中学校の校則調査で子どもの権利条約が生かされる学校になってほしいと痛感したこと、自身のリトミック講師の経験からも乳幼児の体験は大切と言いきり、公的な資金援助なしで展開している、子ども劇場千葉県センターの事業の幅広さに驚きと関心を持たれていました。



放課後子ども教室「出会い・体験・夢ひろば」(四街道)

とき：年間を通じて平日72回・休日4回実施
 10月25日(水) 15:00~16:30「ごっこあそび」しよう!
 11月26日(日) 15:00~16:30 休日企画「かごあみ」
 ところ：四街道市四区集会所・四街道公民館会議室
 登録者数：100人

- ★「連携」は不可能を可能にする
- ↓ 地域の知っている大人が関わっていることで、保護者が安心して送りだしてくれる。
- ↓ 行政・他NPO・地域住民との信頼関係が深まり、連携の拡がりであそび体験の内容が豊かになった。
- ↓ あそびを発信するのは子ども。一緒に遊びながら、子どもたちの現状を行政に報告したり、相談したりできる。(萱沼記)



委託：四街道市教育委員会
 受託：(特)四街道子どもネットワーク
 協力：地域の畑づくりグループ他

第14回 子どもがつくる子どものまち(ならしの) ならしのこまち

とき：11月3日(金・祝) 10:00~15:00
 ところ：谷津奏の杜公園
 参加：会員5人 一般68人 子どもスタッフ7人 計80人
 〈子どもスタッフ会議〉7月から8回の会議

保護者の声
 *毎年1か月前から準備を始めています。来年は6年生で最後。泣いちゃうんじゃないかな。
 *いつも私から離れない子なのに一人で遊んでいる姿が見えて驚きます。子どもにはこんな力があるんですね



主催：(特)ならしの子ども劇場
 後援：習志野市・習志野市教育委員会

連携で豊かに広がる 子ども主体の活動

子どもにとって遊ぶことは、自分の手で自分を育てていく『このちのしくみ』です。TOKYO PLAY 提言『遊びのマニフェスト』より



- ★「連携」は不可能を可能にする
- ↓ 地域の自治会の理解で、公園で火が使えることになった!
- ↓ 地域の職人さんから働く技術を教えてもらえてうれし!
- ↓ 消防士さんの訓練が「お仕事」に! (岡田記)



↓「田楽座公演」を機に「田んぼをつくりたい!」と願う私たちに本塾の皆さんが休耕田を紹介、「竜電の会」が町会で回覧協力してくださり、ニュータウン地区の会員と在来地区の皆さんが繋がった。コロナ以降は、元々授業で別の所で稲作体験をしていた本塾小学校と一緒に取り組んでいる。(住田記)



子どもがつくるまち ミニ☆いちかわ2023 (市川行徳)

とき：10月14日(土) 10:00~15:30 参加：874人
 10月15日(日) 10:00~15:30 参加：314人
 ところ：行徳駅前公園
 ※ミニ☆いちかわ2023(市川中央)
 10月21・22(日) 市川市大洲防災公園 参加：1,320人

- *1組5人チームで対抗戦。かんぱんデザインはパソコンでつくった。学校でも色々やっているからできた。(サバイバルゲーム)
- *混んでも求人があるかないかすぐにわかるボードがついている。「X印」は、「今満員です!」ってこと。(職安)
- *食べ物や火を使うから、事故が起きないように手順書を書いている。ずっとコロナで出来なかったから忘れてしまったところもあるしね。(ホントドング&レモンスカッシュ屋)
- *今年本物の消防士さんが来てくれて、教えてもらった。消防士の体力テストとか倒れた人形をおこす訓練とかするよ。(消防署)
- *前に参加して楽しかったから、今年は店長に立候補プロの職人さんから釘打ちを教えてもらって、材料も寄付してもらえた。ガンバル! (木製工房)
- *今年本物の消防士さんが来てくれて、教えてもらった。消防士の体力テストとか倒れた人形をおこす訓練とかするよ。(消防署)
- *食べ物や火を使うから、事故が起きないように手順書を書いている。ずっとコロナで出来なかったから忘れてしまったところもあるしね。(ホントドング&レモンスカッシュ屋)
- *今年本物の消防士さんが来てくれて、教えてもらった。消防士の体力テストとか倒れた人形をおこす訓練とかするよ。(消防署)

主催：(特)市川子ども文化ステーション
 共催：湊新田自治会
 後援：市川市教育委員会 市川市PTA連絡協議会 市川市子ども教育会連絡協議会 市川市青少年相談員協議会 市川青年会議所 (特)市川市ボランティア協会 市川子どもわくわくネットワーク (特)市川子どもの外遊びの会
 協力：(株)アービック建設 (社)日本皮革産業連合会 助成：子どもゆめ基金

田んぼで米づくり(いんざい)

とき：10/21(土)、22(日)
 ところ：印西市竜腹寺地区谷津
 参加者：登録者数 46世帯
 ※11月に足踏み脱穀、12月に味噌作り、1月に収穫した黒米を使った餅つきの子定



★「連携」は不可能を可能にする

↓「田楽座公演」を機に「田んぼをつくりたい!」と願う私たちに本塾の皆さんが休耕田を紹介、「竜電の会」が町会で回覧協力してくださり、ニュータウン地区の会員と在来地区の皆さんが繋がった。コロナ以降は、元々授業で別の所で稲作体験をしていた本塾小学校と一緒に取り組んでいる。(住田記)

*「お米切るのが楽しかった!」「自分でたくさん刈ったから楽しかった!」「ザリガニやカエルがつかまえた!」「にもぐらの穴や、イノシシの足あとがあった!」「色々な生き物がとれた!」などが子どもの声です。
 (生き物採集については、貴重な種もいるので観察後は原則もとに戻している)

*おだかげ台に刈った稲をかける子ども達の表情は、みな誇りしくて、頑張った達成感と、大人が一緒に作業に自分が役立ったという自信が表れていました。

今年で3年目になる「田んぼで米づくり」は、通年でお米の育つ様子を見ながら、さまざまな体験をし、現代の稲作と作業を比較し、里山の生き物と環境について知る取り組みです。
 「小さい子から楽しめる」ことを重視し、子ども達の興味に応じて取り組めるように心がけています。一緒に高学年や大人も学びながら、色々な生き物と一緒に歓声をあげている、といったところです。



主催：(特)いんざい子ども劇場
 協力：印西市本塾地区の皆さん 竜腹寺地区「蛭竜の会」 印西市「里山の会 ECOMO」 印西市立本塾小学校
 後援：印西市教育委員会
 助成：一般財団法人千葉県環境財団



今どきのパパの子育て事情ってどうなの？

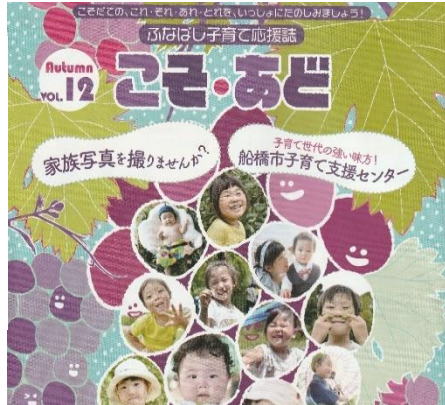
～「船橋パパ会」のパパからおはなしをきく ママパパラインちば研修会から～

講師：渡部泰央さん 丸林 剛さん

男性は問題解決型が多い傾向だが、知恵はほしいと思っている

「ママパパラインちば」では、パパからの電話が増え、パパはママを助けようと一生懸命育児に関わろうとしています。が、やはり不慣れでママの思うようにできなくて、ママのご機嫌を損なってしまうことに戸惑っています。育児に参加しているパパが増えているからこそその声でもあります。当事者であるパパに寄り添うとき、聴き方、受け止め方にママとの違いがあるのか？ないのか？そこが受け手として知りたいことでした。「男性は問題解決型が多い傾向だが、知恵はほしいと思っているはず」だとの講師の話に、気づきと共に傾聴の工夫も必要だと再認識しました。

子育てに役立つ情報満載の
情報誌



＜船橋パパ会とは？＞

＊2016年発足。船橋周辺在住・在勤でゆるい感じで活動している。NPO法人ファザリング・ジャパンとも連携。地域情報誌「このそ・あど」も協力。会員は160人を超えた。

＜船橋パパ会の活動内容＞

＊公民館等でパパ向けの講座やセミナー、イベントの実施と窓口、産婦人科病院でプレパパ・プレママの不安を少なくしてあげたいと講座を開催、コミュニティスクール開催等。

＜船橋パパ会に関わっているパパに聞いてみた！～アンケートから～＞

A 悩みを話せる人がいますか？

- ★妻 83% 自分の親 30% 友人 83% いない 0%
- ★奥さんと良い関係を築いている

A 子育てをしていて一番大変だと思うこと・苦労したことは何ですか？

- ★当たり前のことをやっているから大変も苦労もない。自分の自由がないことが悩み。
- ★子どもが小さい時に二人連れて外出した時は大変でしたが基本的には喜びにあふれた素晴らしい体験です
- ★授乳時期の妻の睡眠時間の確保
- ★待つ事

A パパ会に期待すること、やってみたいこと何ですか？

- ★父親が子どもと一緒に全力で楽しめる企画
- ★親子参加の水鉄砲大会やスポーツ大会
- ★長く続くコミュニティにしたい
- ★プレパパ、プレママの不安の解消 ★パパのつながり

A パパ会で相談したり、語り合いたいことは何ですか。

- ★子どもが思春期を迎えたときの対処方法
- ★地域に貢献する場をつくりたい（小学校PTA会長など）
- ★育児期を終えた後の親同士の交流につなげる
- ★キャリアと子育ての両立
- ★ほかの家庭との交流、いざというときの絆づくり



＜ママパパを支援する方々とママパパに伝えたいこと＞～意見交換から～

求められる父親像が変わってきて、誰を手本にしていいかわかりにくい。そういう先輩もいない。

子育ては期間限定で10年そこそこですから夫婦で何を大事にするか話してほしい。

子ども1才、パパも1年生、常に一人目は1年生が続く。失敗しても仕方ないね。

お母さんも子育て1年生なんですよ。パパもママも知恵を授けてほしいとは思っていると思う。

ママは話を聴いてほしい。でも男の人は答えを求めることが多い。問題解決型思考のようですね。

仲良くなりづらいから孤立する。男性も地域の中でつながることは楽しいはず。

電話で聴くとき、全部受け止めて、線を引いておく所は引いておく。できないことはできないで良いのでは？

男の人は頼るといっのは下手ですね。頼る場所、頼る先を教えてあげるといいですね。

こども家庭庁は？ 発足半年を経過しての情報

■こども家庭庁 審議会「こども大綱」策定へ 答申の中間整理

*今後5年程度のこども政策の方向性を定める「こども大綱」の策定に向けて、こども家庭庁の審議会は答申の中間整理をまとめました。この中では、子どもや若者の利益を第一に考える「こどもまんなか社会」の実現を目指して子どもの成長や子育ての段階に応じた支援を強化するよう求めています。 *▽妊娠・出産から切れ目のない保健・医療の提供や▽困窮世帯の子どもへの教育支援▽障害児や医療的ケア児への支援のほか▽児童虐待や子どもの自殺を防ぐための対策の強化などを重要事項に掲げています。また、子育ての当事者が経済的な不安や孤立感を抱くことがないように、経済的な負担を軽減し、地域ぐるみの支援を促す必要があるとし、施策ごとに達成すべき数値目標と安定的な財源を確保するよう求めています。

■「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン策定に向けて」パブリックコメント

10月22日 子ども劇場千葉県センターとしての意見を提出しました。

■子ども参加の公聴会を初開催 小中高生対象 10月14日 10月21日 オンラインで開催

全国各地の小中高生から直接意見を聴く公聴会が開かれています。校則をはじめ、すべてのこども、子育て世帯が同様に扱われるよう、子育て支援に関する所得制限や地域格差をなくすよう訴える声や、こどもの遊ぶ声が迷惑だと言われた経験から、社会全体の子育てへの理解促進を求める声などが上がりました。また今後も、児童館や児童養護施設、ひとり親支援団体に出向き、意見が言いづらい子どもの声を積極的に集め、これらの声を反映したうえで、年末に「こども大綱」を閣議決定する予定です。



★こども家庭庁が行う「こども若者★いけんぶらす」は、こどもや若者が様々な方法で自分の意見を表明し、社会に参加することができる、新しい取組です。この取組に参加して、こども・若者にかかわる様々なテーマについて広く意見を伝えてくれる「ぶらすメンバー」を大募集しています！小学1年生から20代の方であれば、だれでも、いつでも登録（とうろく）できます。

<https://www.cfa.go.jp/policies/iken/>

千葉市の「こども基本条例検討委員会」の傍聴活動から

千葉市こども基本条例検討委員会（以下、委員会）は3年かけて開かれる予定です。委員数は公募委員4名を含めて20名。委員長はこども基本法策定に関わった宮本みち子さんです。宮本委員長から、テーマごとに部会設置の提案があり、関心のあるテーマに所属してほしいとの呼びかけがありました。8月から部会での検討が始まりました。【こどもの権利の保障部会】、【総則検討部会】、【こどもの意見表明と社会参画部会】、【こどもに関する施策の推進検討部会】の4部会です。

「小学生が読んでもわかるものにしたい」「社会的養護下のこどもにも伝わるもの」「伝わる言葉で」「権利は誰にでもあるもので、NOといえることが大切」「こどもの定義に、すべてのこどもにという表現があるといい」「支援者（代弁者）をどう育てるか？」などの考えや意見が出されました。宮本委員長は「こどもの意見表明はあらゆる場でできることが必要。相談機関ではこども・若者の意見をきちんと聞いているか。あらゆる機関への啓発が必要」と話されました。（人権ネットちばニュースより）

児童施設との連携で“ワクワクドキドキ”子どものあそび交流体験

あそびの出前隊が 子ども館にやってきた！！

4年にわたり続いたコロナ禍は、体を使って仲間とおもいきりあそんだり、体験する場を子どもたちから奪いました。「子どもは遊びを通じて育つ」ということを共有し、これまで関係をつくってきた5か所の子ども館等と、連携して実施しました。プロの芸術家を出前で届け、日頃から親しんでいる会場で、いつものスタッフさんにも見守られて安心してあそびました。12月にあと1箇所、佐倉市臼井老幼の館児童館で行う予定。



☺『こま遊びの出前隊がやってくる！』

佐倉市佐倉老幼の館児童館 8月2日(水)

指導者:こまのたけちゃん ほかに4名

参加者:子ども25人 保護者・施設スタッフ13人

始まるなり、たけちゃんの投げかけに何度も転げまわり、どんどん前のめりになっていった。こま回し、けん玉にどの子もあきらめることなく、チャレンジ！集中して遊んだ。いつもやんちゃの子も「できた！」の気持ちをたけちゃんにほめて、認めてもらったことが自信になり、笑顔であふれていた。

☺『おもいきりうごいて ダンスであそぼう』

市川市市川こども館 8月19日(土)

指導者:安西真幸 ほかに4名

参加者:子ども21人 保護者・施設スタッフ18人

週末の実施にお父さんたちの参加もあり、なんとも楽し気な雰囲気となった。目がキラキラした子どもの動きに「すばらしい！一緒にやろう」、指導者のまあちゃんの声にとっても嬉しそうだった。「ドキドキするよね。勇気を出して」の励ましに異年齢で子どもたちはまとまり自由に踊っていた。



リズムに合わせて思いっきり
おどったよ！楽しいーうれしい！

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

この活動は、令和5年度子どもゆめ基金助成「出前で届ける子どものあそび*アート*交流体験 あそぼ あそぼ」事業です。

遊ぶことは、全人的な育ちと、自分の人生を自分で手づくりする土台を築くことにつながる



一番むずかしいベーゴマに挑戦！真剣勝負の一瞬！



☺『こま遊びの出前隊がやってくる！』

松戸市野菊野子ども館 8月20日(日)

指導者:こまのたけちゃん ほかに4名

参加者:子ども21人 保護者・施設スタッフ11人

「わー！すごい」「もう一回やって」と子どもたちは一気に盛り上がった。たけちゃんのおすご技に興味関心と集中力がすごかった。「皿回し、中国ゴマ等自由にチャレンジ！」「たけちゃ〜ん」とよびながらお兄さんに接しているようだった。たけちゃんの子どもの接し方、指導でほとんどの子がこまをまわせるようになった！

☺『はじけておどろう ダンスあそび』

印西市松山下公園総合体育館サブアリーナ 8月23日(水)

指導者:安西真幸・安西千紗 ほかに3名

からだはほぐれてくると「ダンス大好き！はやくやりたい！」と声が上がった。テンポの速い曲でも頑張っている。集中度がすごい。いろんな擬音をダンスで表現、「すごいね〜最高！」まあちゃんにほめられて嬉しそう。「私が考えたおどりが採用されてうれしかった。」満足した顔！

編集後記

今号は、他団体等との連携による事業やこども家庭庁に係る県内の動きを載せています。また、初めて千葉県議会議員との懇談の場を持ちました。多様な価値観や人と出会うことは多くの学びや刺激があります。私たちも「こどもまんなか社会」実現にむけて、子どもの育ちを応援していく大人の本気度を見せていきたいものです。